民主香川

定価　月 100円
発行所
民主香川社
高松市藤塚町
３丁目13－14
☎(087)834-7311

何としても勝利を必ず！

９日 観音寺市議選が告示

16日投票となる観音寺市議選挙が、９日に告示されます。

４期目に挑戦する日本共産党のふじた均市議は、連日街頭宣伝や対話支持拡大の先頭で奮闘しています。市議選挙は定数18（前回から２減）に22人程度が立候補を予定しています。

市会議員選挙は市長選挙と同時にたたかわれますが、どちらの選挙も新「道の駅」事業が大争点に浮上してきました。事業費は78億円（そのうち観音寺市負担は19億円）と巨額で、「中四国最大」規模の「道の駅」にするとして、すでに地質調査などの周辺工事が始まっています。ところが、いまだに事業の全体計画が示されないうえに、栗林公園以上の集客を見込むという計画に、「赤字になって市民の負担になるのではないか」と多くの市民が疑問の声をあげています。

市議選挙では多くの候補者が、新「道の駅」事業への批判をおこなっていますが、市民の税金をくらしの支援に使えと訴えているのはふじた市議だけ。国保税の引き下げや学校給食費の完全無償化、公共交通の充実などの政策への共感が広がっています。

告示日の９日には、市議選挙で何としても勝利をと白川よう子参院議員が駆けつけ、午後３時から観音寺ハローズの前で街頭演説会を開く予定です。

戦後80年文化講演会

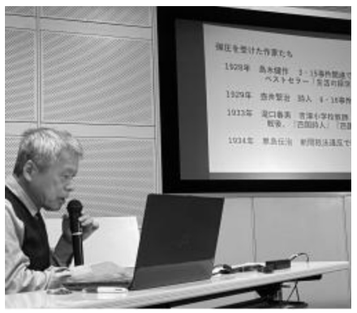
落合氏が講演　高松南部・山田革新懇が共催

高松市で２日、高松南部地域革新懇と山田革新懇が共催し（香川革新懇、後援）戦後80年文化講演会を開きました。

「讃岐の文学案内」や「高松が舞台になった村上春樹『海辺のカフカ』」などの著者の落合貞夫氏が招かれ、「小豆島の反戦作家が今に問いかけるもの」と題し講演しました。

約70人が参加するなか、落合氏は、外国人の排斥を一部の政党が競い合った参議院選挙や日本社会と若者の特徴や動向、フェイクやデマを流しＳＮＳを駆使し分断を生む極右排外主義の台頭にふれ、治安維持法の時代に激しい弾圧を受けた小豆島出身の３人の作家の反戦文学の名作「二十四の瞳」を生み出した壺井栄、ファシズムとたたかった抵抗詩人の壺井繁治、反戦小説の旗手の黒島伝治らを紹介しました。

【２面へ】



太鼓台

女性初のエベレスト登頂を果たした登山家・田部井淳子さんをモデルにした映画が公開されている。福島県出身で私の母校の先輩でもあり、１９７５年の登頂直後には中学校へ講話に来訪された。

「苦しい一歩も必ず終わる時がくると思って登り、頂上に着いた時は、もう登らなくていいんだ」という思いを伺った。その時の私は、山に登った大変さしか理解できなかった。

後になって、旦那さんと３歳の子供を残しての遠征、女性だけで挑戦することへの社会的圧力、頂上直下のキャンプ場で雪崩に遭って、ベースキャンプの隊長からの撤退指示に反対して頂上アタックの判断をしたこと等、厳しい状況や葛藤を知った。晩年は闘病生活をしながら最後まで山に登り続けられた生命力に敬服する。

中学生の頃の私は部活に馴染めずビートルズに夢中だったが高校では山岳部で登山に専念し山に登って測量する仕事に就いて香川に転勤した。あの時、田部井さんに出会わなかったら今ここにいなかったかもしれない。（ち）

【３面から】　年々減らずに増加しています。増加は全国的にも同じですが、更新時期が来てもそのままにしておいたものが積もってきたのです。

このままでは事故が増える一方で、まして大地震が来たらそこら中が水浸しになり、断水で復旧にも長い月数がかかります。早急に更新する必要があります。

更新財源はどうする？

しかし、ここまでほったらかしにしてきた老朽管を大幅に取り換えるには莫大な予算がいります。今までのペースを多少早めるだけでは追いつきません。

水道事業の公共性を考えると、憲法の「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」にたどり着きます。これを受けて、水道法では、「国は、：都道府県及び市町村：に対し：財政的な援助を行うよう努めなければならない」と定めています。まずは国の大幅予算増を求めます。**（いのちの水を守る会 香川世話人 堀井ゆずる）**

市民連合@かがわが朝宣伝

市民連合@かがわは10月20日の朝、ＪＲ高松駅とコトデン瓦町駅前で街頭宣伝を行いました。立憲民主党の造田正彦高松市議や戦争いやだデモの吉富キティさん、日本共産党の石田真優県書記長が訴えをしました。

石田書記長は「国民の要求はそっちのけの自民党と維新の連立政権」を批判し、「政治とカネ問題は後回しで、消費税減税で国民の要求に応える姿はありません。裏金の元になった企業団体献金の禁止はうそばかりです。国民の切実な願いを実現するには国民的・民主的な共同の発展に全力を尽くしましょう」と呼びかけました。

お詫びと訂正　先週の民主香川の発行日付が12月２日となっていましたが、正しくは11月２日でした。

讃岐の文学碑めぐり ㉞

横光利一、川端康成とともに新感覚派の三羽烏と呼ばれた 中河与一（一八九七～一九九四）

文・写真　深沢　雨根

中河与一は、坂出の医師・中河与吉郎の長男として生まれた。丸亀中学（現・丸亀高校）から早大英文科に進むが中退。一九二三年、菊池寛に文才を認められ、『文芸春秋』の編集に従事しつつ、作品を発表するようになる。

一九二四年、横光利一、川端康成、片岡鉄兵、今東光らとともに『文芸時代』を創刊する。このグループは「新感覚派」と名付けられた。中河与一は横光利一、川端康成とともに新感覚派の三羽烏と呼ばれるようになる。芸術至上主義を掲げプロレタリア文学には反対の立場をとった。

中河は一九三五年十二月から翌年四月まで、朝日新聞に「愛恋無限」を連載する。この連載中に二・二六事件が起こり、青年将校に包囲された朝日新聞社へ原稿を届けることに難儀したこともあった。この小説は第一回北村透谷記念文学賞を受賞した。

当時、朝日新聞の連載小説はすべて映画化されていた。しかし、軍国主義のもとで恋愛ものへの圧迫が強まり、映画会社は時流をはばかって製作を見送った。一九六九年、実に33年ぶりに関西テレビとフジテレビがドラマ化して放映し、ようやく中河は鬱憤を晴らすことができた。

一九三六年中河は私費を投じて沙弥島に柿本人麿呂碑を建立。同年十一月、萩原朔太郎、佐佐木信綱、保田与重郎らの参列を得て除幕式を行った。この近くに「愛恋無限」の文学碑が建てられている。

中河与一文学碑

愛恋無限の文学碑

中河の代表作は、「天の夕顔」（一九三八）である。アルベール・カミュも称賛した恋愛小説で、海外六か国語に翻訳され、百五十万部の大ベストセラーになった。

中河の文学碑は、高松市内にも二か所ある。ひとつは中央公園の国際交流会館の中庭にある。ボードレールの詩の一節を刻んだ石柱で、中河の染筆である。サンポートのレストラン「ミケイラ」の横にも二〇〇四年に文学碑が建てられた。碑文「海の幾何学」は、随筆集『左手神聖』の一節からとったものである。